

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

## セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

# デーヴォ ガイド



**2025.10.13-19**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

## ➤ 13日 月曜

### ゼカリヤ



1:1 ダレイオスの第二年、第八の月に、イドの子ベレクヤの子、預言者ゼカリヤに、次のような【主】のことばがあった。

1:2 「【主】はあなたがたの先祖に激しく怒った。

1:3 あなたは人々に言え。『万軍の【主】はこう言われる。わたしに帰れ。——万軍の【主】のことば——そうすれば、わたしもあなたがたに帰る。——万軍の【主】は言われる。』

1:4 あなたがたの先祖のようであってはならない。先の預言者たちは彼らに叫んで言った。『万軍の【主】はこう言われる。あなたがたは悪の道と悪きわざから立ち返れ。』しかし、彼らはわたしに聞かず、わたしに耳を傾けもしなかった。——【主】のことば——

1:5 あなたがたの先祖たちは、今どこにいるのか。預言者たちは永遠に生きるだろうか。

1:6 しかし、わたしのしもべである預言者たちにわたしが命じた、わたしのことばと掟は、あなたがたの先祖に追い迫ったではないか。それで彼らは立ち返って言ったのだ。『万軍の【主】は、私たちの生き方と行いに応じて、私たちにしようと考えたことをそのとおりになされた』と。」

ゼカリヤは神殿の再建に関係した預言者であり、その工事において民を励ました。それは「万軍の【主】は、私たちの生き方と行いに応じて、私たちにしようと考えたことをそのとおりになされた」という事実が根拠です。ですから、民の希望はただ良いことがあるとか何とかかなるというわけではありません。主の御心がなるということが回復の根拠なの

です。

ですからここにあるように「あなたがたの先祖のようであってはならない。」というように、主の御心に沿わなくてはなりません。それこそが本当の希望なのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 14日 火曜

### ゼカリヤ

1:7 ダレイオスの第二年、シェバテの月である第十一の月の二十四日に、イドの子ベレクヤの子、預言者ゼカリヤに、次のような

【主】のことがあった。

1:8 夜、私が見ると、なんと、一人の人が赤い馬に乗っていた。その人は、谷底にあるミルトスの木の間に立っていた。そのうしろには、赤毛や栗毛や白い馬がいた。

1:9 私は「主よ、これらの馬は何ですか」と尋ねた。すると、私と話していた御使いが「これらが何なのか、あなたに示そう」と言った。

1:10 すると、ミルトスの木の間に立っていた人が答えた。「これらは、地を歩き巡るために【主】が遣わされた者たちだ。」

1:11 すると彼らは、ミルトスの木の間に立っている【主】の使いに答えた。「私たちは地を歩き巡りましたが、まさに全地は安らかで穉やかでした。」

1:12 それに答えて【主】の使いは言った。「万軍の【主】よ。いつまで、あなたはエルサレムとユダの町々に、あわれみを施されないのですか。あなたが憤られて七十年になります。」

1:13 すると【主】は、私と話していた御使いに、恵みのことば、慰めのことばで答えられた。

1:14 私と話していた御使いは私に言った。「叫んで言え。『万軍の【主】はこう言われる。わたしは、エルサレムとシオンを、ねたむほど激しく愛した。』

1:15 しかし、わたしは大いに怒る。安逸を貪っている国々に対して。わたしが少ししか



怒らないでいると、彼らは欲するままに悪事を行った。』

1:16 それゆえ、【主】はこう言われる。

『わたしは、あわれみをもってエルサレムに帰る。そこにわたしの宮が建て直される。——万軍の【主】のことば——測り縄がエルサレムの上に張られる。』

1:17 もう一度叫んで言え。『万軍の【主】はこう言われる。わたしの町々には、再び良いものが満ちあふれ、【主】は再びシオンを慰め、再びエルサレムを選ぶ。』」

1:18 私が目を上げて見ると、なんと、四つの角があった。

1:19 私と話していた御使いに「これらは何ですか」と尋ねると、彼は言った。「これらは、ユダとイスラエルとエルサレムを散らした角だ。」

1:20 そのとき、【主】は四人の職人を私に見せてくださった。

1:21 私が「この人たちは、何をしに来たのですか」と尋ねると、主は次のように言われた。「これらはユダを散らして、だれにも頭をもたげさせなかったあの角だ。この人たちは、これらの角を震え上がらせるために、やって来たのだ。ユダの地を散らそうと角をもたげる国々の角を打ち滅ぼすためだ。」

神様に反逆したゆえに苦難にあったイスラエルにできえ、あわれみによって「恵みのことば、慰めのことば」で答えて下さる主です。これはイエス様の十字架による赦しと救いのひな型でえすから、私たちは十字架の赦しと愛によって、そのような主の愛に頼ることができるのです。これらの回復は定められた確かなことですから、

主に希望を持って、依り頼んで生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 15日 水曜

### ゼカリヤ



2:1 私が目を上げて見ると、なんと、一人の人がいた。その手には、一本の測り綱があった。

2:2 私が「あなたはどこへ行くのですか」と尋ねると、彼は私に「エルサレムを測りに。その幅と長さがどれほどあるかを見るために」と答えた。

2:3 すると見よ、私と話していた御使いが出て行った。また、もう一人の御使いが、その御使いに会うために出て行き、

2:4 彼に言った。「走って行って、あの若い者にこう告げよ。『エルサレムは、その中に人と家畜があふれ、城壁のない町のようになる。』

2:5 わたしが——【主】のことは——それを取り巻く火の城壁となる。わたしがそのただ中で栄光となる。

2:6 さあ、すぐに、北の国から逃げよ。——【主】のことは——天の四方の風のように、わたしがあなたがたを散らしたのだ。——

【主】のことは——

2:7 さあ、シオンに逃れよ。娘バビロンとともに住む者よ。』

2:8 あなたがたを略奪した国々に主の栄光が私を遣わした後、万軍の【主】がこう言われたからだ。『あなたがたに触れる者は、わたしの瞳に触れる者。』

2:9 見よ、わたしは彼らに手を振り上げる。彼らは自分に仕えた者たちに略奪される』と。このときあなたがたは、万軍の【主】が私を遣わされたことを知る。

2:10 『娘シオンよ、喜び歌え。楽しめ。見よ。わたしは来て、あなたのため中に住む。——

【主】のことは——

2:11 その日、多くの国々が【主】に連なり、わたしの民となり、わたしはあなたのただ中に住む。』このときあなたは、万軍の

【主】が私をあなたに遣わされたことを知る。

2:12 【主】は聖なる土地で、ユダをご自分の受ける分とし、エルサレムを再び選ばれる。

2:13 すべての肉なる者よ、【主】の前で静まれ。主が聖なる御住まいから立ち上がられるからだ。』

「わたしが——【主】のことは——それを取り巻く火の城壁となる。」とは、なんと頼もしいことばでしょうか。何も希望がなかった中で絶望していても、主が守ってくださいまし、それが何よりも力強いことなのです。

ただしその守りは罪の生活のままでは実現しません。「シオンにのがれよ。娘バビロンとともに住む者よ。」とありますから、神なき罪の生活から主のもとへと方向を変えなくてはなりません。そうすれば「わたし（主）はあなたがた（イスラエル＝神の民）のため中に住む。」と約束してくださるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ▶ 16日 木曜

ゼカリヤ



3:1 主は、【主】の使いの前に立っている大祭司ヨシュアを私にお見せになった。サタンが彼を訴えようとしてその右手に立っていた。

3:2 【主】はサタンに言われた。「サタンよ、【主】がおまえをとがめる。エルサレムを選んだ【主】が、おまえをとがめる。この者は、火から取り出した燃えさしではないか。」

3:3 ヨシュアは汚れた服を着て、主の使いの前に立っていた。

3:4 御使いは、自分の前に立っている者たちにこう答えた。「彼の汚れた服を脱がせよ。」そしてヨシュアに言った。「見よ、わたしはあなたの咎を除いた。あなたに礼服を着せよう。」

3:5 私は言った。「彼の頭に、きよいターバンをかぶらせなければなりません。」すると彼らは、彼の頭にきよいターバンをかぶらせ、服を着せた。そのとき、【主】の使いはそばに立っていた。

3:6 【主】の使いはヨシュアを諭して言った。

3:7 「万軍の【主】はこう言われる。『もし、あなたがわたしの道に歩み、わたしの戒めを守るなら、あなたもまた、わたしの家を含め、わたしの庭を守るようになる。この立っている者たちの間に入り出すことをわたしはあなたに許す。』

3:8 聞け、大祭司ヨシュアよ。あなたも、あなたの前に座している同僚たちも。彼らはしるしとなる人々だ。見よ、わたしはわたしのしもべ、若枝を来させる。

3:9 見よ、わたしがヨシュアの前に置いた石を。一つの石の上には、七つの目がある。見

よ、わたしはそれに文字を彫る。——万軍の【主】のことは——一日のうちに、わたしはその地の咎を取り除く。

3:10 その日には、——万軍の【主】のことは——あなたがたは互いに自分の友を、ぶどうの木といちじくの木の下に招き合う。』

サタンはヨシュアを「訴えようとして」います。同じようにサタンは、クリスチャンを訴えようとしています。神様の祝福を奪い取ろうとするためであり、またクリスチャンに恐れを抱かせるためです。

クリスチャンは十字架によって罪の代価が払われているので、悔い改めさえすれば完全な赦しが与えられるのです。私たちは恐怖感から悔い改めるのではなく、赦された感謝を持って悔い改めるのですから、サタンの訴えは何の力もありません。

ヨシュアは大祭司ですが、「彼の汚れた服を」きよくする必要がありました。このように神の回復は霊的な働き人から始まる必要があります。教会では牧師であり、役員であり、リーダーであり、教師スタッフであり、スポンサーなどです。

そしてヨシュアとは新約の大祭司イエス様をも意味します。すなわち人間であった祭司職が、上様であるイエス様によって全うされて、完全にきよいものとなったのです。

イエス様によって救われ、神様を直接交われる新約の祭司としていただいた私たちは、その使命を全うしましょう。すなわちきよい者とならせていただいて、神の国の前進に役立つものとなりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 17日 金曜

### ゼカリヤ

4:1 私と話していた御使いが戻って来て、私を呼び起こした。私は眠りから覚まされた人のようであった。

4:2 彼は私に言った。「あなたは何をしているのか。」私は答えた。「私が見ると、全体が金でできている一つの燭台があります。その上部には鉢があり、その鉢の上には七つのともしび皿があります。この上部にあるともしび皿には、それぞれ七本の管が付いています。」

4:3 また、そのそばには二本のオリーブの木があり、一本はその鉢の右に、もう一本は左にあります。」

4:4 私は、私と話していた御使いに言った。「主よ、これらは何ですか。」

4:5 私と話していた御使いが答えて言った。「あなたは、これらが何であるかを知らないのか。」私は言った。「主よ、知りません。」

4:6 彼は私にこう答えた。「これは、ゼルバベルへの【主】のことばだ。『権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって』と万軍の【主】は言われる。」

4:7 大いなる山よ、おまえは何者か。おまえはゼルバベルの前で平らにされる。彼がかしら石を運び出せば、『恵みあれ。これに恵みあれ』と叫び声があがる。」

4:8 また、私に次のような【主】のことばがあった。

4:9 「『ゼルバベルの手がこの宮の礎を据えた。彼の手がそれを完成させる。』そのときあなたは、万軍の【主】が私をあなたがたに遣わされたことを知る。」



4:10 だれが、その日を小さなこととして蔑むのか。人々はゼルバベルの手にある重り縄を見て喜ぶ。これら七つは、全地を歩き巡る【主】の目である。」

4:11 私は彼に尋ねた。「燭台の左右にある、この二本のオリーブの木は何ですか。」

4:12 そして再び尋ねた。「二本の金の管によって金の油を注ぎ出す、このオリーブの二本の枝は何ですか。」

4:13 すると彼は私にこう言った。「あなたは、これらが何であるかを知らないのか。」私は言った。「主よ、知りません。」

4:14 彼は言った。「これらは、全地の主のそばに立つ、二人の油注がれた者だ。」

ゼルバベルは運当面での指導者であり、ヨシュアは霊的面の指導者です。オリーブの木はその二人を表します。神様の計画が進むためには両面が必要で、実務的なこともまた信仰的なことも必要です。その両面を持った指導者は理想的ですが、この聖書箇所のように、複数で指導できるのがむしろ現実的ですし、理想でもあります。

教会でもその両方がバランス良く、または両立するように進められる必要があります。また個人の人生に神様の御計画が進むためにも、その両面が必要です。

教会、個人の前進のために今一度、両面のバランスを考えてみましょう。その両面において「油をそそぎ出す」必要があります。すなわち聖霊の恵です。またそのために「油注がれた者」がいるなら、その人に主の權威を認めて協力して従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 18日 土曜

### ゼカリヤ



5:1 私が再び目を上げて見ると、なんと、一つの巻物が飛んでいた。  
5:2 御使いは私に言った。「あなたは何をみているのか。」私は答えた。「飛んでいる巻物を見えています。その長さは二十キュビト、幅は十キュビトです。」  
5:3 すると彼は私に言った。「これは全地の面に出て行くのろいだ。盗む者はみな、一方の面に照らし合わせて取り除かれ、また、偽って誓う者はみな、もう一方の面に照らし合わせて取り除かれる。」  
5:4 「わたしがそれを送り出す。——万軍の【主】のことは——それは盗人の家に、また、わたしの名によって偽りの誓いを立てる者の家に入り、その家の真ん中にとどまって、その家を梁と石とともに絶ち滅ぼす。」  
5:5 私と話していた御使いが出て来て、私に言った。「目を上げて、この出て行く物が何かを見よ。」  
5:6 私が「これは何ですか」と尋ねると、彼は言った。「これは、出て行くエパ升だ。」さらに言った。「これは、全地にある彼らの目だ。」  
5:7 見よ。鉛のふたが持ち上げられると、エパ升の中に一人の女が座っていた。  
5:8 彼は、「これは邪悪そのものだ」と言って、その女をエパ升の中に閉じ込め、エパ升の口の上に鉛の重しを置いた。  
5:9 それから、私が目を上げて見ると、なんと、二人の女が出て来た。その翼は風をはらんでいた。彼女たちには、こうのとりの翼のような翼があり、あのエパ升を地と天の間に持ち上げた。

5:10 私は、私と話していた御使いに尋ねた。「この人たちは、エパ升をどこへ持って行くのですか。」  
5:11 彼は私に言った。「シナルの地に、あの女のために神殿を建てたためだ。それが整うと、その台の上にその升を置くのだ。」

神様の回復というのは、罪から来るのろいをおこなったものにするというような、いい加減なものではありません。罪ののろいはなくなるのです。神様の聖なることは変わらないからです。それでも回復があるということは、そこにはきよめがあるということです。

ここには社会の汚れが表されています。枳とは正しい取引の基準ですが、それさえ「彼らの罪だ」と言われるような、不正があるのだとわかります。エパ枳とは穀物を量るもので経済活動の根幹をなすものですが、そのような社会的基盤となるようなビジネスに不正がはびこっていることが表されています。

その不正を自分たちのものとして、さらにはそのために神殿まで建てるとは、もはや社会の不正が偶像やサタンの域に達していることが分ります。

社会とそこに潜むサタンのわざを見きわめる目をもちましよう。そして主の回復のために、罪から手を引き、自らをきよめましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



6:1 私が再び目を上げて見ると、なんと、四台の戦車が二つの山の間から出て来た。山は青銅の山であった。  
6:2 第一の戦車には赤い馬が、第二の戦車には黒い馬が、  
6:3 第三の戦車には白い馬が、第四の戦車には斑毛の強い馬が、数頭ずつつながれていた。  
6:4 私は、私と話していた御使いに尋ねた。「主よ、これらは何ですか。」  
6:5 御使いは答えた。「これらは天の四方の風だ。全地の主の前に立った後に、出て行くことになる。  
6:6 そのうちの黒い馬は北の地へ出て行き、白い馬は西へ出て行き、斑毛の馬は南の地へ出て行く。」  
6:7 強い馬たちが出て来た。それらは地を駆け巡ろうとしていたので、彼が「行って、地を駆け巡れ」と言うと、それらは地を駆け巡った。  
6:8 そのとき、彼は私に叫んで、次のように告げた。「見よ、北の地へ出て行った馬を。これらは北の地で、わたしの霊を鎮めた。」  
6:9 また、私に次のような【主】のことはあった。  
6:10 「捕囚の民であったヘルダイ、トビヤ、エダヤからささげ物を受け取れ。その日あなたは行って、バビロンから帰って来た、ゼパニヤの子ヨシヤの家に入れ。  
6:11 銀と金を取って冠を作って、エホツァダクの子、大祭司ヨシユアの頭にかぶらせ、  
6:12 彼にこう言え。『万軍の【主】はこう言われる。見よ、一人の人を。その名は若枝。彼は自分のいるところから芽を出し、【主】

の神殿を建てる。

6:13 彼が【主】の神殿を建て、彼が威光を帯び、王座に就いて支配する。その王座の傍らに一人の祭司がいて、二人の間には、平和の計画がある。』

6:14 その冠は、ヘルダイ、トビヤ、エダヤ、ゼパニヤの子ヨシヤの記念として、【主】の神殿の中に残る。

6:15 また、遠く離れていた者たちも来て、【主】の神殿を建てる。このときあなたがたは、万軍の【主】が私をあなたがたに遣わしたことを知る。もしあなたがたが自分たちの神、【主】の声に確かに聞き従うなら、そのようになる。」

「北の地」とはイスラエルを蹂躪したバビロンを表します。神様は御自分の民を苦しめた者たちを野放しにはしません。必ずそのさばきをしてくださるのです。怒りや復讐心に任せて自分で行動してしまわずに、主に委ねましょう。

神様への正しい信仰の表れとして、主は霊的な指導者であるヨシユアに冠を授けますが、それは「ヘルダイ、トビヤ、エダヤ、ヨシヤ」を記念するものです。ヘルダイとは健全の意味です。私たちの信仰が健全であることが前提です。ヤとは神を表し、トビヤは神の恵み、エダヤは神の知識、ヨシヤは神の基礎を表します。

神様の前で健全な信仰を持ちましょう。神様の恵を期待してこれをいただき、神様には全て知られていることで安心し、神様が人生の基礎であるように生きていきましょう。

それが神殿の建て直しのように、幸いの力になるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

